

もし災害が起きた時、こんなことに困ります!

サイレンの音や放送が聞こえないため、災害が起きていることに気づかない場合があります。

【お願い】

聞こえない人が家の中にいる場合は、インターホンを押したりドアをたたいたりして災害が起きている事を伝えてください。インターホンを押すと、光で分かるようにしている人が多く、またドアを強くたたくと振動が伝わる場合があります。手話が分からなくても、身振りなどで伝えて一緒に避難してください。



避難所で音声だけの情報だと分かりません!

【お願い】

放送される内容は、ホワイトボードに書いたり、紙に書いて貼ったりするなど、見て分かるようにしましょう。新しい情報が入ったときは、ランプなどで知らせてください。情報が入れば、聞こえない人自身がボランティアとして支援することもできます。

手話通訳【さまざまな場面で活動しています】

手話通訳はさまざまな場面で活動しています!

- ①病院で・・・診察、治療、検査 など
- ②学校で・・・入学式、卒業式、保護者会、家庭訪問 など
- ③講演会で・・・一般団体や企業、行政などが主催する講演会、研修会、会議 など
- ④職場で・・・就職試験、面接、入社式、社員研修 など
- ⑤生活の中で・・・冠婚葬祭、交通事故、介護保険申請、相談 など
- ⑥地域で・・・敬老会などの地区行事、地区の総会 など

※手話通訳を必要としているのは聞こえない人だけではありません。聞こえる人も手話が分からなければ、お互いの意思疎通は困難です。手話通訳が必要な場合はご相談ください。

【手話はどこで学べるの?】

市の主催で手話講習会を開講しています。企業・団体などで簡単な手話学習をしたい場合はご相談ください。

【手話サークル】

手話講習会修了者が入会し、手話技術の向上や聞こえない人への理解を深め、市民に啓発のための活動をしています。

【要約筆記通訳】

聞こえない人全員が手話を使っているわけではありません。手話を使わない人には、文字で情報を伝える要約筆記通訳の派遣ができます。

手話を勉強すると自分の世界も広がり、聞こえる人と聞こえない人の架け橋になることができます。日常のさまざまな場面で手話を理解してくれる人が増えることで、聞こえない人の世界も広がり、安心して暮らせるまじりになります。ぜひみなさんも手話を学んでみませんか?

自分の手話が通じた時はうれしいですよ!



社会福祉課 大月

■問合先 社会福祉課 (☎22-1111・内線296、FAX 25-2335)

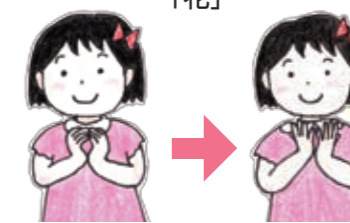
中津のまちに手話の花を咲かせましょう

「手話」



両手の人差し指を2回ほどくるくる回転させます。

「花」



両手のひらを軽く丸めて合わせ(つぼみ)、ゆっくり開きます(花が開く様子を表します)。

手話は見る言葉といわれ、聞こえない人にとって大事な言語です。日本の中でも方言があるのと同じように地域や年齢、性別によって少し異なります。

2006年12月13日の国連総会において「手話は言語である」と認められました。その後、国連は2017年12月19日に毎年9月23日を「手話言語の国際デー」とすることを採択しました。

これを機に、みなさんも聞こえていない人への配慮や手話言語について考え、取り組んでいきましょう。

あなたの周りに聞こえない人がいたら・・・

(ご近所・職場・お店のお客さん・患者さんなど)

- 後ろから話しかけられても聞こえません。マスクは外し、大きく口を開けてゆっくりと話してください。
- 「たばこ」「たまご」「なまこ」などのように口の動きが似ている言葉は間違えやすいので、身振り手振りも一緒にすると、間違いが少なくなります。
- 筆談をする場合は、文章は短く簡潔に書いてください。手話言語を使う人は、音声言語と違い独自の言語体系のため、文章が苦手な人が多いです。
- あいさつなどの簡単な手話を、ぜひ覚えてください(毎月1日号の市報なかつに「ワンポイント手話」を掲載中!)。職場などでは、朝礼や会議などの内容を事前にまとめて渡すなどの配慮をしましょう。音声を文字に変える携帯アプリもあります(合理的配慮)。

聞こえないとどんなことに困るの?

周囲の状況が分からない

自動車のクラクションや自転車のベルの音が聞こえず危険な目に遭うことがあります。



絵や文字など見て分かる情報で伝えてください!

音声による放送が分からない

電車やバス、駅や商業施設などの放送による案内が聞こえません。また、病院や銀行などでは呼び出しの音が聞こえません。

こんな誤解を受けることも・・・

外見では気づいてもらえない

外見から聴覚障がい判断するのは難しいです。困っていても気づいてもらえなかったり、話しかけても返事がないと、「無視された!」と誤解を受けたりすることがあります。また、中途失聴者(病気などで途中から聞こえなくなった人)の中には話せる人もいるため、さらに理解してもらうのが難しいです。



生活上の音が聞こえない

物を置く音、椅子やスリッパの音など生活上自分が出している音が聞こえません。気をつけていても大きくなることもあり、誤解を受ける場合があります。